

耳鼻咽喉科予約時のお願い

新型コロナウイルス感染症対策として、耳鼻咽喉科の診察依頼時には問診票の記載をお願いします。
なお、発熱などの症状がある場合は、新型コロナウイルス感染症を否定してからの受診となりますので、紹介元医療機関様で簡易検査を実施していただくか、当院で検査を実施し陰性を確認してからの受診となります。
なお、当院で検査を実施する場合は、診察までの待機時間が長くなりますのでご了承ください。

開放型病床生涯教育研修会 兼 臨床研修医による症例報告会

令和4年2月3日に、第318回開放型病床生涯教育会兼第1回臨床研修医による症例報告会を開催しました。
当日は、当院の臨床研修医からの症例報告および意見交換を行い、医師23名を含む合計31名の参加者がありました。
今回は、新型コロナウイルス感染症対策を行いながら集合研修で開催したため、会場の参加者との活発な意見交換等が実施でき有意義な時間がもてました。なお、講演内容は次のとおりです。

- | | | |
|-----|----------|---------------------------------|
| 講演1 | 講師：北條 貴広 | テーマ：若年の下垂体腺腫手術によって劇的な視野改善を呈した一例 |
| 講演2 | 講師：織田 裕敏 | テーマ：眼球破裂の一例 |
| 講演3 | 講師：澤田 克也 | テーマ：抗アレルギー薬とステロイドが著効した胃アニサキス症 |
| 講演4 | 講師：北脇 大督 | テーマ：SLE患者に出現した急速に増大する肺多発腫瘤影 |



第319回開放型病床生涯教育研修会兼第2回臨床研修医による症例報告会のお知らせ

- 日時：令和4年3月3日（木）17：30～19：10
場所：市立長浜病院 本館2階 講堂
- | | | |
|-----|-------------|------------------------------|
| 講演1 | 講師：井上 遥香 | テーマ：筋萎縮性側索硬化症と診断し治療介入を開始した症例 |
| 講演2 | 講師：伊原 俊之 | テーマ：リンゴ誤嚥による両側気管支異物の1例 |
| 講演3 | 講師：マクラケン 佳世 | テーマ：無症候性皮膚筋炎の一例 |
| 講演4 | 講師：桂 東吾 | テーマ：緊急内視鏡的整復術を施行したS状結腸軸捻転の症例 |
- 参加をご希望される方は、地域医療連携室までご連絡をお願いします。担当：堀・原田

登録医専用駐車場横通用口の制限について

新型コロナウイルス感染症対策として、令和4年2月1日から、当院の玄関の開閉時間等が次のとおりとなりました。

- *正面玄関：平日7：30～18：00
- *救急時間外通用口：24時間（夜間は来院目的の確認があります）
- *別館玄関：閉鎖
- *登録医横の通用口：閉鎖
- *ローソン横通用口：閉鎖

このに伴い、当院北側に設置している登録医専用駐車場横の通用口からの出入りが制限されることになりました。

つきましては、通用口横に設置してあるインターフォンを押していただければ解錠させていただきます。

登録医の先生方にはご不便をお掛けいたしますが、感染防止の徹底のため、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

インターフォン



編集後記

今年度は新型コロナウイルス感染症に加え大雪にも見舞われ、例年以上に振り回された気がします。3月に入り雪が収まってくれば、新しい芽が出てきたりなど、春の訪れを感じるが増えてくるのが楽しみです。

市立長浜病院 地域医療連携だより

令和4年3月1日号 No.204

理念
地域住民の健康を守るため、「人中心の医療」を発展させ、
地域完結型の医療を進めます。

市立長浜病院
患者総合支援センター 地域医療連携室
〒526-8580 長浜市大茂町 313 番地
TEL：0749-65-2720
FAX：0749-65-2730
<http://www.nagahama-hp.jp/>



救急告示病院
日本医療機能評価機構認定病院
地域がん診療連携拠点病院
厚生労働省臨床研修指定病院
周産期協力病院
地域医療支援病院

謹啓 時下益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。平素は当院病院事業に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。3月の外来診察担当医師表を別添資料でお届けいたしますので、ご査収ください。 敬白

市立長浜病院泌尿器科の御紹介

泌尿器科責任部長 村井 亮介

泌尿器科では、令和3年4月から常勤医師1名、非常勤医師1名の体制で診療を行っています。湖北地域の泌尿器科医療を維持するべく、毎日の外来診療、泌尿器科的処置、時間外対応、入院及び手術加療に対応しています。

湖北地域を初め、滋賀県下の関係各所の皆様には常日頃から当科の診療に多大な支援をいただき、非常に感謝しております。

当院では、尿路悪性腫瘍、尿路結石、排尿障害で受診される患者さんが多く、泌尿器科疾患全般を診療しています。ご高齢の患者さんも多いため、生活の質と病気の制御の両立を図ることの重要性を感じます。

さて、近年の飛躍的な医療技術の進歩に伴い、泌尿器科領域でも新たな機器や薬剤の導入が進んでいます。ロボットを初めとした低侵襲手術機器、レーザー機器、内視鏡診断を補助する光線力学的診断機器など、使用することで患者さんへのメリットは大きいものの、導入にはハードルが高い（コストのかかる）機器が増えています。

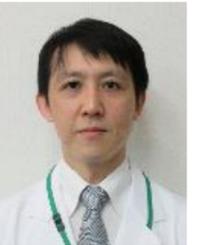
薬剤治療についても、抗がん剤を中心に新規薬剤の適応が拡大したり、ゲノム医療の開始など治療内容が複雑化し、医療者側がまだまだ使用経験がないまま次の新薬が使えるようになったりするような、目まぐるしい変化があります。

このため、よほどの施設でない限り、単一施設で全ての機器を所有し、すべての治療を提供することは困難になってきており、地域全体として泌尿器科医療を維持していくことが必要だと思えます。

当科で施行可能な治療の特色としては、筋層非浸潤性膀胱癌に対するアミノレブリン酸を利用した、光線力学的診断併用の経尿道的膀胱腫瘍切除術、前立腺癌に対する強度変調放射線療法、尿路結石に対する体外衝撃波結石破碎術およびホルミウムヤグレーザーを使用した経尿道的手術、前立腺肥大症に対するバイポーラシステムを使用した経尿道的前立腺腺腫核出術などが挙げられます。

特色をいかにしながら、地域の皆様と協力して泌尿器科医療を先端のものに維持できるように努力していきます。また同時に、患者さん一人一人の状態に応じて生活を支えるべく臨機応変に対応することを目標に、スタッフ一同温かい心で診療をしていきたいと考えております。

今後とも、何卒よろしくようお願い申し上げます。



地域外来・検査センターについて

当院では、令和2年6月10日から、地域外来・検査センターを開設しています。

地域外来・検査センターでは、登録医（湖北医師会の会員）からのご紹介により、平日の10:00からドライブスルー方式で新型コロナウイルス検査を実施しています。

検査方法としては、抗原定量検査を基本としていますが、登録医の先生方からのご要望によりTRC検査（核酸増幅法）も可能です。

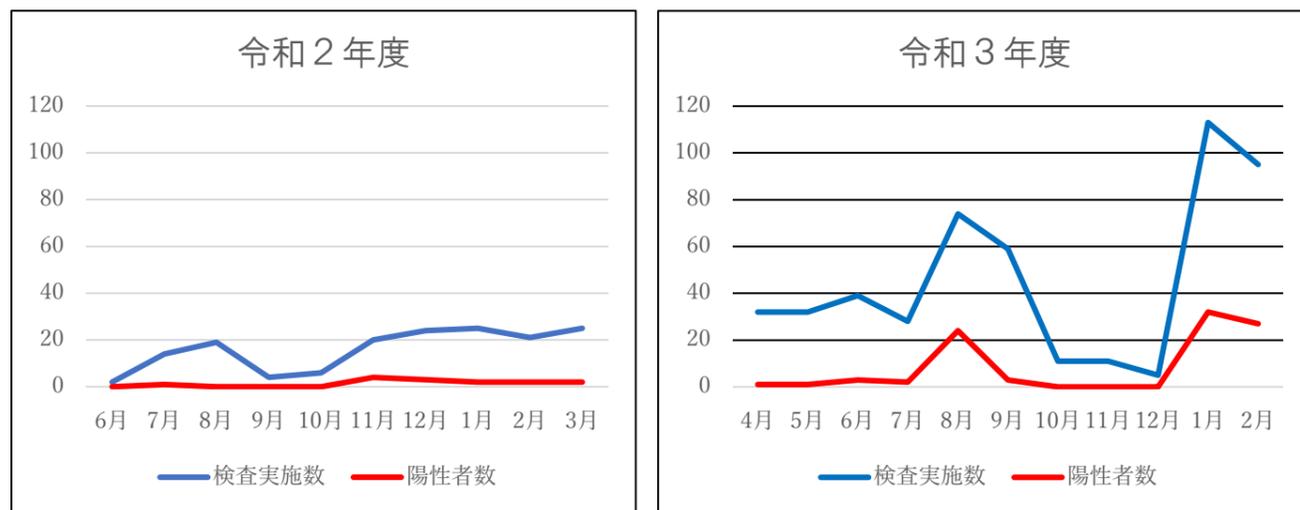
検査結果については、抗原定量検査は検査当日のお昼頃、TRC検査は検査当日の夕方に判明します。

検査の対象者は、新型コロナウイルス感染症を疑う症状があり、登録医が検査が必要と判断された方になりますので、対象の患者さんがおられましたら地域外来・検査センターへご紹介いただくと幸いです。

ご依頼方法としては、診療情報提供書（地域外来・検査センター専用）を、地域医療連携室にFAX送信いただければ、検査予約を取らせていただきます。

なお、10:00に来院できる方については、当日予約も可能ですので、地域医療連携室までお問い合わせをお願いします。

検査の実績としては、下のグラフのとおりですが、最近のオミクロン株による感染の急拡大により、令和4年1月から検査実施数および陽性者数が急拡大しています。



患者総合支援センター 令和3年度活動報告

患者総合支援センター副センター長兼地域医療連携室長 徳田 敏子

患者総合支援センター 地域医療連携室では、当院の理念である「地域完結型医療」の推進に向け、患者相談、病院内外の医療連携、チーム連携など、医療・保健・福祉を含めた包括的なサービスを提供しています。

令和3年度は、地域医療連携グループ、相談窓口・入院支援・ベットコントロールグループ、退院支援グループの体制で、外来受診から入院および退院を見据えて、在宅や地域へスムーズに繋がるように多職種が連携して支援に努めてまいりました。

令和3年6月1日には、診療局長補佐兼腎臓代謝内科責任部長兼人工透析センター長の森田善方医師を患者総合支援センター副センター長にお迎えし、患者総合支援センターの体制をさらに強化しています。

昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響によりカンファレンスなどの制限が続いていますが、今年度はオンラインを利用したカンファレンスや研修会なども実施することができました。

今後も、できる限りの支援に努めてまいりますので、ご指導、ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。



地域医療連携グループ 尾崎 千鶴

令和3年度の紹介患者数は、12月末日で10,710件と、昨年度と比較して2,496件の増加となっています。多くの患者さんをご紹介いただきありがとうございます。

今年度のトピックスとしては、従来の内視鏡室から、規模の拡大・拡充を行った内視鏡センターを、令和3年5月10日に開設したことです。

内視鏡センターでは、内視鏡検査室や内視鏡機器の増設を行い、対応できる検査件数も大幅に増やしておりますので、できる限りご希望に添えられるよう、さらに調整機能を高めたいと考えています。

また、新型コロナウイルス感染症の蔓延に伴い、地域外来・検査センターの検査件数も多くなっています。

このため、医師会の先生方の安全を確保しスムーズに検査依頼が行えるよう、診療情報提供書のFAX送信のみでご予約いただけるように運用方法を変更いたしました。

今後も地域との連携協力を積極的に推進するため、スタッフ一同地域の先生方に寄り添えるように取り組んでまいります。



退院支援グループ 土田 由美子

当院では、令和2年8月から入退院支援加算1の算定を開始し、よりきめ細かな退院支援を行えるように務めてまいりました。

今年度の支援件数は、1月末で1,017件と昨年度より188件増加しています。また、近年は、独居・老老介護・生活困窮など様々な問題に直面する事が多くなったと実感しています。

退院支援グループでは、このような様々な困難な問題に向き合いながら、できる限り住み慣れた地域での療養や生活が継続できるように支援を進めていきたいと考えています。

しかし、退院支援は病院だけで完結できるものではありません。

今後も、かかりつけ医の先生方を初め、施設や各事業所の皆様とより一層の連携を深めながら、退院支援グループ丸となって取り組んでまいります。

次年度も、どうぞよろしくお願い申し上げます。



患者窓口・入院支援グループ 北村 美幸

1. 患者窓口

患者相談窓口では、月曜日～金曜日の8:30から16:00まで、担当者が相談対応をさせていただいています。

相談件数においては、月に250～350件の相談対応を実施しています。

昨年度と比較すると、月平均50件以上の対応件数が増加しています。

今年度の特徴としては、受診相談が79.6%であり、主に新型コロナウイルスに関連する、発熱、検査、ワクチン接種についての問い合わせが多くみられました。

2. 入院支援

入院支援では、介入診療科の変更及び、担当看護師の人員減少などの変化が生じているため、昨年との比較は難しいですが、月150～200件程度の対応を実施しています。

月平均1.34件と、微増ですが対応しています。

入院支援における今年度の大きな課題として、入退院支援加算取得にむけての準備を整える事を目標に活動しました。

院内の診療体制の変化により、診療科対応の縮小や拡大など外来・病棟・診療科の医師との協議を行い、幅広く入院支援介入を実施する準備を整えています。

面会制限下での入院生活が、安心・安全に送っていただけるよう、院内スタッフと情報を共有できるよう対応しています。

